様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　２１　年　２　月　１６　日現在

研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：２００６～２００８
課題番号：１８５２０１５０
研究課題名（和文）　西鶴の使用語彙と人間文化生成の相関についての研究
研究課題名（英文）　A Study on the Relationship between the Saikaku's active vocabulary and the Formation of Human Culture

研究代表者
西島　孜哉（NISHIJIMA　ATSUYA）
武庫川女子大学・文学部・教授
研究者番号：２０１０２８０８

研究成果の概要：
西鶴の使用語彙から策定された人間文化の総体について、現時点では次のような試案を想定し、その吟味と検証、補訂を行っている。それは新しい人間文化のモデルを提言しうるものと考えている。
人間文化を大きく５つの構成要素に分類し、その要素を生成する小概念をたてる。

What/Why 何を/なぜ大切にするか（人間尊重・帰属性・規律性・社交性）
キーワード：不義・人はならはせ・生国・義理・情・はなし

How/どのような生き方をするか（誠実性・着実性・知の継承）
キーワード：誠・長者丸・世の鑑

What/How 何を/どのように創り出すか（創造性・素人性・玄人性）
キーワード：仕出し・贔屓・家職・家業

What/How 何を/どのように求めるか（現実重視・精神性・向上心・競争心）
キーワード：浮世・訳知り・粋・天下一

What/How 何を/どのように受けつぐか（伝統文化融合・地域文化融合・国際性）
キーワード：俗源氏・珍奇・世界

括弧内の小概念を成立させるキーワードを設定する。西鶴作品の中で人間文化と関わりのある語彙を選定してキーワードとして取り上げた。短期間の研究であり、キーワードは僅かしかあげえないが、今後引き続いて西鶴作品から数多くのキーワードを抽出しうると考えている。そのキーワード群によって構築する西鶴の人間文化図と現代の人間文化との対比によって、新しい提言が可能となるのである。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	600,000	0	600,000
２００７年度	400,000	120,000	520,000
２００８年度	400,000	120,000	520,000
総　計	1,400,000	240,000	1,640,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：近世文学、浮世草子、西鶴、人間文化

１．研究開始当初の背景

現代の人文基礎学研究の趨勢は、個別的な事象の追究から、学際的・領域横断的分野の追究へ移行している。文学研究に限れば、その文献学的方法の徹底がともすれば末梢的な事象の追究に走りがちになっていたことの反省にたっているのであろう。人文基礎学全体の傾向が文化事象を大きくとらえようとするものになっている。それは平成 14 年から開始されて COE のテーマに如実に反映している。人間文化にかかわるものをみれば、大阪市立大学「都市文化創造のための人文科学的研究」・大阪大学「インターフェイスの人文学」・京都大学「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」などが目に付くが、それらは人間文化の総体を研究しようとするものである。都市文化、領域横断、多元化などがキーワードであろう。本研究課題はそのような学問的趨勢の中に位置づけることができる。

一方、関西大学オープンリサーチセンター整備事業「なにわ・大阪文化遺産の総合人文学的研究」（H17）にも見られるように、大阪の文化遺産を研究対象とすることも盛んになりつつある。申請者自身も学術フロンティア推進事業「関西圏の人間文化についての総合的研究」（H16）を推進しているが、先の人文基礎学の傾向が地域や時代を超える普遍性・理論性を追究するのに対して、地域や時代の個別的追究を通して、研究の対象をより具体化し、有効なものとしようとするものである。本研究課題はそのようなプロジェクトにも大きく貢献しうると考えている。

２．研究の目的

本研究課題においては作者井原西鶴の関係した出版物を取り上げて、そのなかの使用語彙を調査・分析する。西鶴が使用した語彙の分析から、当時の大阪、さらには日本の「世の人心」である人間文化の種々相について、その全体像を浮かび上がらせることを目的としている。当時の大阪の人々が自己の人間文化としたものは多岐にわたるであろうが、西鶴の作品全体をトータルとして取上げ、単なる個別資料としてではなく、最も時代を代弁するものであるという立場から捉える。その全体像は人間文化をあらわすキーワードとなる自立語群の抽出によって確認しうるものと考えている。その自立語群を人間文化構成要素に分類し、人間文化事典を作成する。基本的な人心とその下位分類としてキーワードを配列する。その結果、全体として人間文化の一つの典型が導き出されるのである。それを現代における人間文化形成のあり方の重要な資料として提言していく。

３．研究の方法

研究の全体構想としては、大坂さらには日本の人間文化の生成について出版メディアと文化生成の相関について追究する。人間文化生成には、さまざまな分野の人々の参加する出版メディア共同体である文化サークル全体の解明が必要であり、作者のみならず出版書肆や学者やその他のさまざまな分野の人々の活動を総合することが必要になってくる。本研究課題ではそのような視点を据えて、幅広い人間文化生成の解明の一環として、

文化サークルの一員であった浮世草子作者井原西鶴の作品をとりあげるのである。西鶴の使用語彙の分析から文化生成の種々相を解明することが可能となる。

具体的には西鶴の使用語彙を調査・分析し、人間文化としてのキーワードとなる自立語を抽出する。そのキーワードを分析することで、人間文化の全体像を構築する。ただし国語学的な数量分析のみでなく、作品の主題とのかかわりの中で如何に有効に使用されているか、そのキーワード性を明らかにする。このような形での作品分析はともすれば恣意的になる可能性をはらんでいるが、それらの人間文化にかかわる使用語彙のトータルとしての働きを重視し、人間文化の典型を想定することで客観性を獲得する。

４．研究成果

本研究課題においては、井原西鶴の関係した出版物を取り上げて、その使用語彙を調査・分析し、当時の大坂、さらには日本の「世の人心」である人間文化の種々相について、その全体像を浮かびあがらせることを目的にしていた。当時の大坂の人々が自己の人間文化としたものは多岐にわたるであろうが、西鶴の作品全体から抽出される人間文化を、大きく次の 5 つの構成要素に分類した。

何を／なぜ大切にするか
どのような生き方をするか
何を／どのように創り出すか
何を／どのように求めるか
何を／どのように受けつぐか

研究期間において発表した論文は6編にすぎないが、それぞれ5つの構成要素を導き出すものであった。「西鶴の世界観－女護島と纐纈城－」では、西鶴の世界観について論じ、その現実認識と自己の認識不能な世界についての受容のあり方を追求した。「『本朝廿不孝』の教訓性－小吟の造型と西鶴が期待した読者－」では、当時の教訓のあり方について、教育のあり方について考察した。「江戸時代の教育－西鶴作品と町人の家訓－」および「江戸時代の教育」においても同様に教育の問題を追及した。

最終年度においては、「大阪の人々の拠り所－天下の台所－」と題して、すでに追求してきた問題を含めて、大阪の町人が、何を大切にし、またどのような生き方をしているかというあり方を具体的に解明した。人はならはせ・生国・誠・長者丸・世の鑑などがキーワードとして抽出された。「西鶴作品にみられる中国説話－その日本化の様相－」と題して、大阪の人々は、何をどのように受けついでいるのか、またその上で、何をどのように創り出そうとしていたかについて、西鶴の中国説話の摂取のあり方を具体的に分析することによって、そのあり方を解明した。中国説話の摂取はまず和刻本とされることがあり、また翻訳・翻案も行われて摂取されていったが、それが日本文化として融合されて、新しい文化を形成することになるのである。キーワードとしては、仕出しという創造的語彙を抽出しうる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

①西島孜哉、羽生紀子、西鶴作品にみられる中国説話－その日本化の様相－、『東アジアにおける文化交流の様相』（「関西文化研究叢書」9）、無、2008、pp45-55
②西島孜哉、羽生紀子、大阪の人々の拠り所－天下の台所－、『日本と中国の基本的人間文化－その普遍と個別－』（「関西文化研究叢書」8）、無、2008、pp 3-7

③西島孜哉、江戸時代の教育、『世界の子育て様式と関西』(「関西文化研究叢書」6)、無、2007、pp 10-15

④西島孜哉、江戸時代の教育－西鶴作品と町人の家訓－、『関西の子育て文化』(「関西文化研究叢書」5)、無、2006、pp 223-233

⑤西島孜哉、『本朝廿不孝』の教訓性－小吟の造型と西鶴が期待した読者－、「日本語日本文学論叢」1 (武庫川女子大学大学院文学研究科紀要)、無、2006、pp 85-98

⑥西島孜哉、羽生紀子、西鶴の世界観－女護島と纐纈城－、『人間文化の諸相と東アジア－異文化とは何か－』(「関西文化研究叢書」4)、無、2006、pp 2-11

〔学会発表〕(計 8 件)

①西島孜哉、羽生紀子、西鶴作品にみられる中国説話、第 5 回 MKCR 国際学術交流フォーラム、2008・2・29、中国、山東大学

②西島孜哉、羽生紀子、大阪の人々の拠り所－大阪の歴史からみて－、第 4 回 MKCR 国際学術交流フォーラム、2007・12・1、中国、西安交通大学

③西島孜哉、07,08 年度 MKCR フォーラムのコンセプトについて、第 45 回 MKCR セミナー、2007・6・7、武庫川女子大学

④西島孜哉、関西文化の歴史的資料のデジタル・アーカイブ化、第 2 回 MKCR ワークショップ、2007・3・2、武庫川女子大学

⑤西島孜哉、近世メディア共同体と関西人間文化形成の相関的研究、第 2 回 MKCR ワークショップ、2007・3・2、武庫川女子大学

⑥西島孜哉、江戸時代の文学にみる親子、第 3 回 MKCR 国際シンポジウム、2007・2・4、武庫川女子大学

⑦西島孜哉、江戸時代の親不孝－その背景をさぐる－、第 3 回 MKCR 国際学術交流フォーラム、2006・11・17、韓国、梨花女子大学

⑧西島孜哉、関西文化事典作成のためのキーワード－西鶴作品の語彙－、第 29 回 MKCR セミナー、 2006・5・11、武庫川女子大学

〔図書〕(計 2 件)

①西島孜哉、絵入開化往来、武庫川女子大学大学院文学研究科「地域文化研究叢書」2、2007、pp 116

②西島孜哉、谷脇理史他、勉誠出版、『新編西鶴全集第 5 巻・本文篇,自立語索引篇上,自立語索引篇下』2007、本文編 pp 1498、索引編 pp 2067

〔その他〕

①西島孜哉、蜆川の虚と実－江戸時代を想いながら－、「まほら」54、2009・1、pp 44-45

②西島孜哉、書評「江本裕著『西鶴研究－小説篇－』、「国語と国文学」2006・10、pp 71-75

６．研究組織

(1)研究代表者

西島　孜哉 (NISHIJIMA　ATSUYA)

武庫川女子大学・文学部・教授

研究者番号：２０１０２８０８

(2)研究分担者

(3)連携研究者